


小田原ならではの  
文化によるまちづくり基本計画



令和4年度  
評価結果

令和5年12月

小田原市

## 基本計画の概要

小田原市では、令和2年4月に文化芸術基本法の趣旨及び令和3年9月の小田原市民ホールの開館を踏まえ、市民一人一人が心豊かに希望をもって暮らしていくまちの実現及び文化による活力と魅力あふれるまちの実現のため、小田原市文化によるまちづくり条例を制定しました。

本計画はこの条例に基づき、本市の文化振興施策と文化によるまちづくりに関し、基本方針及び推進を図るための事項を定め、施策の総合的かつ計画的な推進のため策定したものです。

## 実績評価の方法

### 1 評価の方法

基本計画では、計画の期間を令和12(2030)年度までとし、施策ごとに目指す姿(2030年度)を設定しています。計画の進行管理として、目指す姿(2030年度)に対し、令和4年度どの程度達成しているかを精査し、実績評価を行っています。

### 2 評価の基準

以下に示す基準により、実績を評価しました。

評価区分	基準
順調	目指す姿に向け、着実に成果が上がっているもの。
やや順調	今後も継続して取り組むことにより、目指す姿の達成が可能であると見込まれるもの。
取組中	目指す姿の達成に向け、より一層取り組みが必要なもの。
停滞	目指す姿の達成が困難なもの。
未実施	施策に向けた取り組みを実施しなかったもの。

## 評価結果総括

新型コロナウイルス感染症のワクチン普及等により、屋外イベントを中心に、手探りながら国内・国外ともに社会活動やイベント等が再開され始めました。交流事業は回復傾向となり、イベント数や小田原市への来訪者数等も前年に比べ増加となりました。三の丸ホールの運営、文化資源のデジタル化も順調に行われ、各事業順調に維持・増加傾向となりました。

施策の進捗状況としては、全14施策のうち、「順調9」「やや順調4」「取組中1」となり、「順調」「やや順調」を合わせると全体の92%、「順調」は64%でした。現在実施している事業の継続した取組みと内容の充実、新たに始めた事業・今後実施を目指す事業について、目指す姿の実現を目指し、実施後の明確なビジョンを持ちながら努めていく必要があります。

## 今後の課題

イベントや交流事業は、現在も様々な形で取り組みが実施されていますが、イベント参加者数や観光客数は増加傾向にあることから、今後も柔軟に対応して事業を展開していくことが望まれます。また、各種イベント等が行われる三の丸ホールや歴史的建造物など、ハード面においても、環境の整備を確実に進めていくことが重要であると考えます。

情報発信においては、幅広いツールの確保と、確実に安定的な情報の提供、新たな文化活動の担い手育成においては、子どもへ向けた事業やアウトリーチ事業などの実施を、引き続き努めていく必要があります。

さらに、小田原の新たな文化の把握と創造、恒常的に文化を創造していく風土の醸成と文化振興を図るため、より積極的に取り組む必要があります。



		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R3	R4	R6目標値	2030目標値	R4年度の数值について	R4年度勘案すべき内容	R4評価	R4文化政策課の所見	
基本目標 1	施策1	文化を守り、伝える	小田原ならではの歴史や文化・伝統を、市民が広く認知・理解し、愛着を持って大切にするとともに、市民の多くが、その保存や継承に携わり、取り組んでいる。	文化財公開等事業の来訪者数	増	7,182人/年	7,571人/年	6,200人/年	総合計画	文化財建造物 秋の観覧会 12月3日(土)・4日(日)実施 参加者数：2,367人 (岩瀬家住宅・旧松本剛吉別邸・静山荘・小田原文学館・皆春荘・老樗荘/葉雨庵/無住庵・旧内野醤油店・古稀庵庭園(4日のみ公開))	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○小田原城天守閣入場者数は、前年に比べ大きく増となった。 ○文化財公開事業等への来場者も、安定して一定の集客を集めている。 ○今後も継続的に取組を実施していく。	
	施策2	文化資源の保存と活用	歴史的建造物等の利活用が充実し、多くの人が建造物を利用し、訪れ、広く親しまれている。	文化部の管理する歴史的建造物での、イベント等実施回数(日数)	増	297回/年	503回/年	96回/年	192回/年	旧松本剛吉別邸 127回 ・ 論語の素読会、わってらカフェ×マルシェ 皆春荘 59回 ・ 花所望、大人の遠足、浴衣で庭園巡り 松永記念館 253回(特別展含む) ・ 収蔵洋画展 ・ 弥生の大集落 中里遺跡 ーくらしを変えた東西の出会いー 文学館 64回(特別展含む) ・ 小田原時代前後の白秋とその周辺 ー没後80年目の回想 特別展 ・ 藤田湘子宛水原秋櫻子書簡 企画展	○旧松本剛吉別邸・皆春荘の管理運営・利活用を、民間事業者へ業務委託(R4.11月開始) 受託業者：株式会社トーブラ (剛吉) 21イベント実施、まち歩き10ツアー誘致 (皆春) 6イベント実施、まち歩き13ツアー誘致  【イベント参加人数】 旧松本剛吉別邸 1,806人 皆春荘 455人 松永記念館 7,270人 文学館 1,801人	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○旧松本剛吉別邸・皆春荘は、R4.11月から利活用の業務委託を開始し、順調にイベント開催数を増やした。 ○清閑亭は、利活用事業者は決定しているが、準備のため1年間休館となった。 オープンに向け、着実に準備を進めていく。
				歴史的建造物の入場者数	増	77,370人/年	70,343人/年	93,000人/年	総合計画	松永記念館 14,266人 清閑亭 休館中 文学館 5,312人 なりわい交流館 40,120人 旧松本剛吉別邸 7,337人 皆春荘 3,308人			
基本目標 2	施策1	文化・芸術拠点である小田原三の丸ホールの活用	市の文化・芸術活動を推進する拠点としての機能が確立され、全市民が一度はホールを訪れて多様な文化・芸術に触れており、さらに多くの人が集い交流が図られている。	市民ホールの入館者数	高止まり維持	137,149人/年	324,000人/年	500,000人/年	500,000人/年 総合計画・重点施策	(R4.4~R5.3) 大ホール 230回 小ホール 243回 スタジオ 200回 展示室 234回 ギャラリー回廊 92回	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○入館者数・事業実施回数・稼働率は全て増となった。 ○現在の状況を維持しつつ、利用しやすいホール運営に努める。	
	施策2	文化活動への支援	市民自らが文化活動を行うための相談・情報提供等の支援体制が整い、発表などの機会の充実が図られている。	市民ホールでの事業実施回数(日数)	維持	433回/年	999回/年	1,000回/年	1,000回/年	(R5.8月末時点) X(旧Twitter)フォロワー数 1,377 インスタ フォロワー数 1,243 Facebook フォロワー数 359	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ホールのSNSはいずれもフォロワー数を増やし、投稿数も順調に増えている。 ○今後も継続的に、安定した情報提供に努める。	
	施策3	文化・芸術に触れる身近な機会の充実	日常生活により身近な場所において、文化・芸術に触れる機会が創出され、市民の文化活動の充実が図られている。	市民ホールHPのアクセス数	維持	117,058回/年	183,572回/年	90,000回/年	90,000回/年	2022.9.1~2023.8.31のアクセス数	(R5.8時点) X(旧Twitter)ツイート数 2,264 インスタ投稿数 393 YouTubeアップ数 16	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○アウトリーチ事業は実施回数を増やし、ストリートピアノも延期などあったが、実施することができた。 ○今後も、市民に身近な地域での文化事業の開催に努める。
			市の文化事業(展示会等)が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	0回/年	13回/年	15回/年	15回/年	ストリートピアノ R5.1.14~1.26まで13日間実施	ストリートピアノ R5.1.14~1.26まで13日間 9:00~17:00 ハルネ小田原梅丸広場 演奏者：450人 鑑賞者：1,130人	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施		
			市の文化事業(公演)が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	30回/年	39回/年	55回/年	55回/年	アウトリーチ実施校数 23校39回				



		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R3	R4	R6目標値	2030目標値	R4年度の数值について	R4年度勘案すべき内容	R4評価	R4文化政策課の所見	
基本目標 3	施策1	文化を支える地域と人材の育成	地域の伝統行事等を通じて世代間の交流が図られるとともに、人材育成のためのプログラム等が確立し、充実している。	アウトリーチ事業参加児童生徒の満足度 (5点満点)	増	4.6点	4.7点	4.3点	4.8点	アウトリーチアンケートより (5点満点)	アウトリーチ実施校数 23校 39回 アウトリーチ実施団体数 15組	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○アウトリーチ実施校児童の満足度は、高めで推移している。 ○前年・前々年度、開催中止となっていた、後継者育成発表会が開催され、世代間の交流を図ることができた。
				小田原民俗芸能保存協会 後継者育成発表会観覧者数	維持	開催中止	454人	500人	500人	三の丸ホール大ホールで開催 同日、栢山田植歌のワークショップも実施	R4 団体数に変更なし 8団体		
	施策2	文化の多彩な情報発信	多彩なツールを活用した情報発信が整い、市内に限らず広く誰でも簡単に情報を得られる。	SNS等を利用した文化情報発信の件数	増	64件/年	76件/年	36件/年	108件/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 50件 文化レポーターFacebook 発信件数 26件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,595人 (R5.8末現在) 神奈川イベントカレンダー(マグカル)年4回発行	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○メルマガ・文化レポーターによる情報発信は、安定的に実施されている。 ○文化レポーターによる情報誌「いろいろ小田原」が創刊され、今後、さらに幅広い小田原の情報発信が期待できる。
				情報誌等の発刊回数	増	0回/年	2回/年	4回/年	8回/年	文化レポーター通信 「いろいろ小田原」(オススメ小田原情報)	文化レポーターによる紙媒体での情報発信 紙「いろいろ小田原」創刊		
	施策3	交流の促進	姉妹都市等と、歴史・文化の点においても広く交流が図られている。	国内姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	0回/年	5回/年	2回/年	2回/年	・北條五代祭り ・寄居北條まつり ・八王子いちよう祭り ・斑鳩町文化セミナー ・名産物の給食メニューの提供	・地球市民フェスタ開催 (3年ぶり) ・FMおだわらでベトナム語のラジオ番組を制作・放送	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○各地でイベントが再開し、交流も増となった。国内交流は、イベントでの交流だけでなく、セミナー実施など多岐にわたった。 ○海外交流は、まだ全面的に再開できてはいない状況であるが、引き続き社会情勢に合わせ柔軟に取り組んでいく。
				海外姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	1回/年	2回/年	2回/年	2回/年	・チュビスタオンライン交流 ・チュビスタ高校交流、市長訪問			
	施策4	他分野や人材・団体等との連携	地域や幅広い分野の人・団体と多岐にわたって連携し、文化に触れる機会が提供され、協働して文化活動が行われている。	文化に関する名義後援の件数	増	45件/年	67件/年	50件/年	75件/年			順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○名義後援は、多くのイベントが再開されていることに伴い、過去2年に比べ大きく増となった。 ○市民学校の活動人数もさらに増となり、今後の活動が期待できる。
				市民学校修了生の担い手実践活動人数	増	85人	143人	90人	総合計画				
	施策5	産業・観光との連携による魅力の創出	産業・観光団体等と歴史的・文化的資源を活用したイベントや催しが行われ、文化観光が促進されている。	市の文化資源と産業・観光団体が連携して実施したイベント件数	維持	22件/年	21件/年	22回/年	48回/年	小田原観光協会(小田原市が出資)の実施事業のうち、歴史的建造物等の文化資源を活用して行われたイベント等 ・北條五代 歴史と文化の祝典 ・小田原ちようちんまつり ・おだわら応援花火プロジェクト	カラーテープアート(ハルネ小田原) 14グループ 45人参加	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○昨年中止となった、花火など大きなイベントが、形を変えながらも実施できたため、観光客数や観光消費額の増につながった。 ○イベントの完全な再開に向け、引き続き団体等の支援を行っていく。
				一人当たり観光消費額	増	3,420円	3,679円	3,832円	総合計画				



		2030目指す姿	参考指標 (定量的)	目標の方向	R3	R4	R6目標値	2030目標値	R4年度の数值について	R4年度勘案すべき内容	R4評価	R4文化政策課の所見																								
基本目標 4	施策1	文化を創造する風土を高める	市民自らが文化活動に参加して相互に交流し、文化活動の振興が図られ、文化活動への取り組み体制や支援が確立している。	小田原を文化的なまちだと思ふ市民の割合	増		約8割	約9割		文化振興策の検討 → R5おだわらカルチャーアワードの開催アンケートは、R7に実施予定	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○文化振興策の一つである、「おだわらカルチャーアワード」実施のための準備を進め、目指す姿の達成を目指した。																								
				小田原が文化活動をしやすいまちだと思ふ市民の割合	増		約4割	約6割																												
	施策2	デジタル文化の活用	デジタル技術を活用した、リアルとバーチャルが融合した公演が実施されるなど、より広く充実した文化活動が行われている。	文化部内で、文化資源をデジタルアーカイブ化した件数	維持	4,942点/年	61,126点/年	5,000点/年	5,000点/年	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>対象物</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高精細撮影</td> <td>土器・文書・刀剣など</td> <td>8,369</td> </tr> <tr> <td>デジタル撮影・スキャン</td> <td>絵葉書・標本類など</td> <td>30,924</td> </tr> <tr> <td>3D撮影</td> <td>天守閣複製・民具など</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>動画撮影</td> <td>二宮尊徳生家</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>VR撮影</td> <td>老徳荘・皆春荘・天守閣など</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>リールフィルム撮影</td> <td>8mmフィルム・オープンリールなど</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>データコンバート</td> <td>DVDやBD内の動画など</td> <td>21,667</td> </tr> </tbody> </table> デジタルミュージアム創設業務で行った資料のデジタル化実績数 おだわらデジタルミュージアムオープン 小田原市が収蔵している資料をいつでも、誰でも、簡単に、閲覧・検索することができ、後世まで継承するとともに、教育・生涯学習・観光振興として活用することを目的とし開設 (R5.3.31オープン)。 ・3.31~8月末アクセス数 93,000 電子図書館サービスの開始 図書館に行かなくても、PC・スマホ・タブレット等から電子書籍を楽しむことができるサービスを開始。	種類	対象物	件数	高精細撮影	土器・文書・刀剣など	8,369	デジタル撮影・スキャン	絵葉書・標本類など	30,924	3D撮影	天守閣複製・民具など	20	動画撮影	二宮尊徳生家	12	VR撮影	老徳荘・皆春荘・天守閣など	8	リールフィルム撮影	8mmフィルム・オープンリールなど	126	データコンバート	DVDやBD内の動画など	21,667	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○おだわらデジタルミュージアムのオープンにより、資料のデジタル化件数は大きく増となった。来年度以降、郷土文化館所蔵資料以外の資料のデジタルアーカイブ化を着々と進めていく。 ○三の丸ホール実施事業のうち、配信等を行う件数も増となった。環境の整備は引き続き取り組んでいく。
	種類	対象物	件数																																	
	高精細撮影	土器・文書・刀剣など	8,369																																	
	デジタル撮影・スキャン	絵葉書・標本類など	30,924																																	
	3D撮影	天守閣複製・民具など	20																																	
	動画撮影	二宮尊徳生家	12																																	
	VR撮影	老徳荘・皆春荘・天守閣など	8																																	
	リールフィルム撮影	8mmフィルム・オープンリールなど	126																																	
データコンバート	DVDやBD内の動画など	21,667																																		
			デジタル技術を使用し地域に届けられた文化活動の件数	維持	11件/年	23件/年	25件/年	25件/年	三の丸ホール実施事業のうち、ライブや録画で配信を行った件数																											
施策3	発信力を高める	広く世界に対して、市の情報や文化活動が発信される体制が確立し、参加と交流が図られる。	国外に対し、文化に関するプロモーションの実施回数	維持	0回/年	0回/年	3回/年	3回/年			順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○内容やツールを検討しながら情報発信に努めたことで、SNSのフォロワー数等が増加し、発信力が強化された。 ○国外に向けたプロモーションはまだ実施できていないが、交流の再開に伴い、今後増えることが想定される。																								
			SNS等を利用した文化情報発信の回数	増	64回/年	76回/年	36回/年	108回/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 50件 文化レポーターFacebook 発信件数 26件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,595人 (R5.8末現在)																										
施策4	持続可能なまちをつくる	文化活動の推進により、次代を担う子どもの豊かな心と小田原に対する誇りを育むとともに、「小田原ならではの」を感じられるまちづくりが進み、持続可能な社会に向かって推進している。	市民ホールでの子ども・青少年向け事業の実施回数 (日数)	維持	22回/年	33回/年	50回/年	50回/年			順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○子どもへ向けた事業・学習は着実に実施されている。 ○郷土の偉人学習についても、安定的に取り組まれている。 ○SDGsパートナーの登録者数も増となった。																								
			郷土の偉人 (二宮尊徳) 学習の実施	維持	25校/年	25校/年	25校/年	25校/年	尊徳記念館に出かけ学習 10校 尊徳記念館講師を招聘 10校 その他 5校																											
			SDGsパートナー登録者数	増	192者	272者	260者	総合計画																												